

小松屋は、中山道五十一番目の宿場である太田宿にあった旅籠です。

この敷地内には、平成13年に本校造園科（現在の環境デザイン科の前身）の生徒が設計・施工した「望川亭（ぼうせんてい）」と呼ばれる庭があります。

望川亭は、太田宿からの眺めを縮小して表現した縮景式庭園で、木曾川や鳩吹山の風景が庭の中に再現されています。生徒たちは主屋から見える景色をスケッチし、庭に隠された遠近法を読み解きながら、時間の許す限り、興味深く見学をしました。



その後、可児市の木曾川渡し場へ移動しました。ここは江戸時代に中山道が初めて木曾川を渡った地点として栄えた場所です。役目を終えた後は竹藪となっていました。平成19年から木曾川左岸遊歩道友の会によって整備が進み、現在は美しい竹林と遊歩道が広がっています。生徒たちは散策しながら地域の景観について学びました。

